

中学の人間教育プログラム

中学1年生

7月に行われる『翠の学校』と事前・事後のプログラムがあります。『翠の学校』は「自己を見つめる」というテーマのもと、学年全員参加で行われる、2泊3日の合宿です。学年の生徒の傾向に応じて多少バリエーションがありますが、「いのち」「賜物」「共に生きる」という3つのプログラムが用意されています。

「いのち」では自分という存在のかけがえのない尊さを実感してもらいます。

「賜物」では、「友だちの良いところを指摘してあげよう」という時間を持ちます。自分では思ってもみなかった、自分の良いところを友だちは認めてくれていた、生徒の顔が輝く瞬間です。これが女子聖学院における賜物探しの出発点となります。

「共に生きる」では、「人にされて嫌だったこと」を共有した上で、更にその後、今度は「自分が人にしてもらいたいことを、人にしなさい」(黄金律)、そうすると人間関係はすばらしいものになるということを実感するゲームを取れ入れたりしています。これが、人とつながる力を育てる、女子聖学院の教育の出発点となっています。

このように、『翠の学校』は『翠の学校』であなたが学んだことはどういうことでしたか」と、何度も立ち返ることができる、女子聖学院の人間教育の出発点とも言うべきプログラムとなっています。

中学2年生

生徒はその成長段階にふさわしく、「大人なんてこんなもの」「世界なんてこんなもの」と、自分の狭い見聞の中で世界に対して勝手なイメージを作り上げてしまい、自分の考えに固執しがちになります。

そこで、その勝手なイメージを揺さぶり、自然や地球の大きさ、世界の豊かさに触れてもらわなければなりません。そして、この大きな世界が抱えている問題に目を向けるように促します。

学年の生徒の傾向によって、環境問題を取り上げたり、国と国との経済格差の問題(ストリート・チルドレンの存在を通して)を取り上げたりしています。そのような大きな世界の問題に、あなたはどう向き合いますか、あなたはどう係わって行きますか、それが「自己を活かす」ことになるのです、と語りかけます。これが、中学3年の「他者のために何ができるか」というテーマにつながっていきます。

中学3年生

中学の修学旅行でもある北海道旅行とその事前学習が行われます。三浦綾子さんの文学と生き方から学ぶことを中心としています。事前学習として、小説『塩狩峠』の読書会をし、『氷点』の映画鑑賞を行います。『塩狩峠』の主人公の生き方と行動に注目しつつ、「他者のために、人のために、何ができるか」という問いに真剣に向き合うことを促しているのです。生徒達も若い瑞々しい感性で、この問いに向き合っていきます。

中高生のこの時期だからこそ、このような問いを正面から受けとめてほしいと願っています。

この中学3年生から、具体的に**進路指導—進路学習—**が始められます。「将来、社会において、あなたは、どんな職業を通して、自分の賜物を発揮し、人のために何をしようとするのですか？」という大きな問いかけのもとに、**職業興味検査**に取り組んでももらいます。身近な方の職業についてインタビューしてみようという課題も出されます。多くの職業について調べる課題も出されます。そのようなことを通じて、中学3年までに女子聖学院で進めてきた**自己理解**を更に一步深めるよう促してまいります。

このように、**進路学習**はキリスト教人間教育の大きな柱の一つとして行われているのです。

他にも「**ライフプランニング**」という特別授業も行われます。